

# 「小さな願い」から、 その人らしい暮らしを支える

特別養護老人ホーム  
光生舎ゆいま〜る・もみじ台

電話：011-899-1600  
住所：札幌市厚別区もみじ台南3丁目4番地



厚別区社会福祉協議会は、区内の地域福祉の推進を図るため、多くの施設・事業所・団体のご協力をいただきながら事業を進めています。「シリーズ 正会員紹介」では、正会員として厚別区社協を支えてくださっている皆さんの活動をご紹介します。

第8弾は、社会福祉法人北海道光生舎特別養護老人ホーム「光生舎ゆいま〜る・もみじ台」を訪ね、施設長の<sup>おおすだ</sup>大須田 司さん、副施設長の<sup>たかだ</sup>高田 光さんにお話を伺いました。

## —活動の原点と、「ゆいま〜る」に込められた思い

北海道光生舎は、赤平市で障がいのある方の就労支援として始まったクリーニング事業が原点で、今年70周年を迎えます。創業者の高江常男氏は、自身が両腕を失いながらも働くことで喜びを得て、同じような境遇の人にもそうあってほしいと、クリーニング工場を立ち上げました。「障がいを理由に特別扱われるのではなく、一般企業と同じ土俵で働く」「障がい者としてではなく、一人の人として係わる・尊重される」この理念は今も法人全体に息づいています。

「ゆいま〜る」という施設名は、「結(ゆい)」=結び合い、「ま〜る」=巡る、を組み合わせたもの。「お互いに支え合い、助け合いながら暮らす」という意味が込められています。沖縄の方言でもあり、温かい言葉です。これまでかかわった障がいのある方が高齢期を迎えた時や地域

の人たちが、安心して暮らし続けられる場をつくりたい—そんな思いから、この特別養護老人ホーム(特養)は誕生しました。

## —その人の「生きてきた時間」を大切にするケア

施設で大切にしているのは「生活を施設の中で完結させないこと」です。特養はどうしても“箱の中の生活”になりがちです。でも、その人の人生はここに入居してから始まったわけではありません。もっと「外」とつながってほしいと考えています。

そこで始めたのが、『小さな願いを叶えるプロジェクト』です。職員からの提案でスタートしました。「近くのスーパーに行ってみたい」「お世話になっている職員にお菓子を作りたい」そんなささやかな願いを、形にしていくものです。活動の様子はSNS(Instagram)でも発信しています。

ある入居者の方は、かつてお菓子作りが得意でした。最初は気乗りしなかったものの、職員と一緒にマドレーヌ作りを始めるうちに、自然と体が動き、職員に手順を教える姿が見られました。完成したお菓子は、後日ご家族と一緒に味わうこともできました。作っている様子をお伝えすると「久しぶりに、昔の母の姿を感じることができました」と、喜びの声が届きました。私たち職員が“うまくやった”というより、利用者さんが本来持っている力を引き出されたような感覚でした。

## —向き合うところから、支援を深めていく

施設では、入居者一人ひとりの願いや不安をまとめた『私の姿と気持ちシート』も作り、活用しています。「今までの生活スタイルを変える時は優しく説明してください」「コーヒーを飲むのが好きです」「排便はトイレでしたい」など、その方の気持ちと職員が向き合うことで作成され、支援の方向性を共有するのです。「何のために支援するのか」を立ち返るきっかけにもなっています。

野球が好きで「夫婦でエスコンに行って応援したい」という車椅子の入居者がいらっしました。娘さんだけでは連れて行くのが難しい状況です。あきらめていた思いにもう一度向き合い、職員も同行する形で実現させました。一人の人としてその気持ちに向き合ったことで願いは叶いました。決して簡単なことではありませんが、職

員にとっても大きな達成感が得られることになりました。

また、職員同士の関係づくりも大切にしています。「出勤したら、まずきちんとあいさつをする」「整理整頓を徹底する」—当たり前のことを大切にしながら、改善提案を出し合う文化を育てています。施設では、障がいのある方も働いています。多くは施設内の清掃やリネンの洗濯などの間接業務を担ってもらっています。このおかげで、介護職は介護に専念できているのです。中には、自身のステップアップのためにも、介護にかかわる直接業務にも取り組みたいという方も出てきます。人の気持ちが動く瞬間に立ち会える、成長する姿を見ることができると、この施設の特徴です。

## —これからも「その人らしい暮らし」を支えるために

私たちの支援の目的は、その人が望む生活にどこまで寄り添えるかだと思っています。そこには地域の方の力も必要です。施設内の交流スペースや喫茶を利用していただきつつ、住民の方が気軽に参加できるように、介護保険の仕組みや老人ホームの費用を学ぶ講座なども開催予定です。さらに、一緒に悩み、ワクワクできるようなこともしながら、開かれた施設を目指しています。

光生舎ゆいま〜る・もみじ台は、これからも“結び、巡る”支え合いの輪を広げながら、地域に寄り添う施設であり続けたいと思っています。



施設長 大須田 司さん



副施設長 高田 光さん



ご家族などからいただいた感謝の言葉  
私たちのモチベーションになっています。



『喫茶く・る・る』  
自慢の手作りカレーライスとミートソーススパゲティを是非、食べにいらしてください！



『地域開放スペース』  
地元の福祉推進委員会も交流の場として活用されています。